

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第2部門第5区分  
 【発行日】平成23年1月13日(2011.1.13)

【公表番号】特表2008-507455(P2008-507455A)  
 【公表日】平成20年3月13日(2008.3.13)  
 【年通号数】公開・登録公報2008-010  
 【出願番号】特願2007-523737(P2007-523737)  
 【国際特許分類】  
     **B 6 0 R 21/20 (2011.01)**  
 【F I】  
     B 6 0 R 21/22

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成22年11月11日(2010.11.11)  
 【誤訳訂正1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0039  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0039】

ダイオード型エアバッグは、当該技術分野で周知の多くの膨張器のうちの任意の膨張器で使用できるが、出力を長くされた膨張器は、転覆時の用途で、その他の膨張器よりも良好に作動できる。出力を長くされた膨張器の1例が、フィンクに付与された米国特許第6,543,806号に示してあり且つ論じられている。同特許に触れたことにより、この特許に開示された内容は本明細書中に含まれたものとする。出力を長くされた膨張器に性能上の利点を提供する特徴の1つは、膨張器内に収容されたガス混合物を使用することである。分子が小さいヘリウム等のガスを、分子が大きいアルゴン、窒素、二酸化炭素、酸化窒素、等のガスと組み合わせて使用してもよい。

p

【誤訳訂正2】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0045  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0045】

本明細書中に開示したように、ダイオードエアバッグ設計により、アルゴン濃度を高めることができる。これは、ガスの混合比に関わらず、定位完了時間を更に迅速にする技術による。この場合も、大きなガス分子の濃度をこのように高めることができるため、エアバッグの圧力保持が更に高められる。混合物は、出力を長くされたコールドガス膨張器で、場合によっては単チャンバコールドガス膨張器で、ヘリウム50%及びアルゴン50%の範囲で使用されてきた。この特定の混合物は、定位完了時間が40ms程度であった。かくして、充填時間要件(定位完了時間が長いと、アルゴンの割合を高めることができる)に応じて、アルゴン等の大きいガス分子の濃度は、10%乃至100%であってもよい。

【誤訳訂正3】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0049  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】

## 【 0 0 4 9 】

更に、エアバッグの作動圧力が低いため、シームでの漏れを減少でき、シームに作用する応力を減少できる。更に、出力を長くされた膨張器が、低い作動圧力を長時間に亘って効果的に維持する方が、膨張器が高い必要作動圧力を維持する場合よりも容易である。従って、出力を長くされた膨張器とダイオードエアバッグ設計の組み合わせは、システムレベルで大きな利点を提供できる。

## 【 誤訳訂正 4 】

【 訂正対象書類名 】 明細書

【 訂正対象項目名 】 0 0 5 8

【 訂正方法 】 変更

【 訂正の内容 】

## 【 0 0 5 8 】

ガスで充填されるように意図的には設計されていない、一つの特定のエアバッグ内の幾つかの領域が、経時的に徐々に充填されるようにできる。これらの追加の意図されていないセルは、膨張されていないこれらのエアバッグ領域を閉鎖するのに使用されたシームにより、実際には、これらのシームを通して意図せぬセル領域内に漏れることができるため、形成される。出力を長くされた膨張器がエアバッグに圧力を供給し続けるため、これらの意図せぬセルがガスで充填される。シームでの漏れの程度に応じて、意図せぬセルを充填するのにかかる時間は変化する。一つの特定のエアバッグでは、意図せぬセルは、展開をビデオモニターで見て、約 1 秒で充填される。随意であるが、意図せぬセルを形成するオフエンディング ( o f f e n d i n g ) シームを戦略的に開放し、ゆっくりと充填されるセルを形成してもよい。更に、これらのゆっくりと充填されるセルを経時的に膨張することによって、エアバッグの総張力を更に大きくしてもよい。

## 【 誤訳訂正 5 】

【 訂正対象書類名 】 明細書

【 訂正対象項目名 】 0 0 6 4

【 訂正方法 】 変更

【 訂正の内容 】

## 【 0 0 6 4 】

次いで、縫い合わせであり / シールしていない同じエアバッグの例を使用し、エアバッグ / 膨張器組み合わせを、転覆保護と関連して評価した。従来の開放流エアバッグは、5 秒間包含する目的が与えられた場合、包含性の要件を十分に満たすため、5 秒で約 15 kPa を必要とするということが確認された。所定の 5 秒間の目的が与えられた場合、ダイオードエアバッグは、包含の目的について、5 秒で約 10 kPa のエアバッグ圧力で同様に機能する。ダイオードエアバッグについてのこの圧力値は、ダイオードエアバッグに設けられたロードセル断面内での変位が、従来のエアバッグと比較して減少することにより概算される。試験により、従来のエアバッグは、5 秒で約 15 kPa を達成するため、出力が 3 . 5 モルの、出力を長くされたコールドガス膨張器 ( E x t e n d e d O u t p u t I n f l a t o r : E O I ) を必要とするということが確認された。更に予備試験により、作動圧力が低いダイオードエアバッグは、5 秒の臨界で 10 kPa を達成するため、出力が 2 . 5 モルのコールドガス E O I を必要とするということがわかった。